

事業所名

きらきらぼし

支援プログラム(参考様式)

作成日

2025 年

4 月

1 日

法人(事業所)理念		【法人】 障害児とその家族の笑顔を守る。 障害児の安らげる居場所と、その家族が安心して手を離せる環境を提供する。 家族に寄り添い、家族の想いを大切に子どもたちの強みを最大化する支援を目指す。 【事業所】 安心の療育と適切なリハビリを提供する。						
支援方針		必要性・個性性に合わせたリハビリテーションを提供する。 他職種で協働し、子どもたちがより楽しく、笑顔で溢れる支援を行う。 子どもたちの将来を見据えたアプローチを提供する。 職員教育を通じた支援の質の維持・向上を目指す。						
営業時間(学校営業日)		9 時	30 分	～	17 時	30 分	送迎実施の有無	あり
営業時間(学校休業日)		9 時	0 分	～	17 時	0 分		
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	全身の衛生管理・観察を行い、必要に応じた入浴支援等を通して子どもたちの衛生環境を適切に保つよう支援する。 看護師を中心とした健康状態のチェックを行う。 日常的に医療的ケアを必要とする子どもたちの健康を維持する。 子どもたちの発達段階に合った介入を行い成長発達を促す。						
	運動・感覚	理学療法士等により、個別の必要性に合わせたリハビリテーションを提供する。 リハビリテーションを通して、子どもたちの発達段階に合わせた運動発達を促進する。 リハビリテーションを通して子どもたちの健康状態・全身状態を確認し、自身の身体感覚を認識できるよう促す。 感覚遊びなどを通して固有感覚を刺激し、子どもたちが快・不快といった自分の意思を他者へ伝達することを促す。						
	認知・行動	年間行事や制作活動を通して、他者と協力して1つの物事を達成する喜びを感じられるよう促す。 季節に合わせた行事を通して、時間や季節の流れを感じられるよう促す。 リハビリテーションや感覚遊びを通して、人的・物的環境に対する認識や子どもたちの能動的な行動につながるよう促す。						
	言語 コミュニケーション	ポジショニングや身体環境の適正化からコミュニケーションを取りやすい環境を整備し、他者との関わりを持てるよう促す。 また子どもたちの発信だけでなく、周囲との相互的なコミュニケーションが取れるよう促す。 個性性に合ったコミュニケーション手段を用いて他者との意思疎通を図りやすい環境を作り、自己表現を促す。						
	人間関係 社会性	継続して事業所のスタッフや他の利用者と関わり、次のライフステージに繋がる他者との関係づくりを促す。 季節行事や年間行事を通して、集団で一つの物事に取り組む中で他者との関わりや自分の役割を持つことで、小集団での社会性を認識できるよう促す。 事業所周辺の施設や公園等に外出し、家庭や事業所と違う、さらに幅広い人的・物的環境での感覚情報を得られるよう促す。						
家族支援		送迎時や担当者会議、面談などを通して、日常生活における困りごとを確認し 必要に応じたアドバイスや情報提供を行う。 また自事業所のみでの対応が困難であると判断された場合には、相談支援員 等への情報提供を行う。				移行支援		進級・進学などライフステージの切り替えを見据えた、地域の生活の場 や育ちの場との交流や情報交換。 地域住民との交流を通じた、地域と繋がりがづくり。
地域支援・地域連携		研修や会議等を通じた他職種・他事業所との交流と情報交換 地域連携会議への参加				職員の質の向上		事業所内での研修会の開催、事業所外の研修会への参加促進 児童発達支援管理責任者など各種関連資格取得の支援
主な行事等		年間を通じた季節ごとのイベント 近隣施設や公園へのお出かけ						